

2023年度 札幌大谷大学社会学部地域社会学科
学校推薦型選抜〔公募制（一般枠）〕

小論文

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は1ページです。
- 3 試験中に印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。

問題

パソコンやスマートフォンなどの情報機器の普及は、ネットに特有な言葉の使い方を出現させた。たとえば、じっくりと言葉の意味を吟味するのではなく、スピード感や拡散性が重視される傾向が見られ、わかりやすさや紋切り型の言葉が重宝される。このような時代に生きる私たちは、「言葉」に対してどのような向き合い方をする必要はあるだろうか。次の新聞記事を参考にして、あなたの考えを800字程度で述べなさい。なお、文章は常体(である体)、横書きとする。

文化庁の国語に関する世論調査では、パソコンやスマートフォンといった情報機器の普及で、社会における言葉や言葉の使い方が「影響を受ける」と感じる人が90.6%にのぼった。小中学生に1人1台の情報端末を配る国のGIGAスクール構想など、機器の使用は広がっている。

影響を受けると思うと答えた人に、どう影響があるか複数回答で聞いたところ、「手で字を書くことが減る」(89.4%)、「漢字を手で正確に書く力が衰える」(89.0%)、「人に直接会いに行き話すことが減る」(54.5%)が多かった。

小説家の平野啓一郎さん(47)は「インターネット以前は、日常の口頭の会話が可視化されることはあまりなかったが、今は特にソーシャルメディアを通じて俗語的な表現が広まるのが非常に速い。そうした言葉が小説にも反映されていると思う」。ただ、「ネットの言葉は情報処理には適しているが、語彙も限られ、それだけでは日本語がやせていく。ソーシャルメディアの言葉を離れ、本をじっくり読むことも大事だ」と言う。書家の石川九楊さん(77)は「多くの人が言葉への影響を自覚しているのは、まだ希望が持てる」とみる。「身体を通して書いた言葉には、個性や感情がにじみ出てくる。教育の場や家庭では機器は限定的に使う方が良いのでは」と指摘する。

出典:『朝日新聞』2022年10月1日(朝刊)「国語世論調査 PC・スマホ『言葉に影響』9割」